

## あとがき

日本獣医循環器学会は、1964年、家畜心電図研究会として発足しており、この学会の変遷は「家畜心電図研究会の歩み、学会事務局、第1号、1968」、「わが国における家畜心電図研究のあゆみ、澤崎 坦、第5号、1972」、および「家畜心電図研究会の歩み、中村良一、第16号、1983」という3編に記されている。「家畜心電図研究会」が「獣医循環器研究会」と名称変更され、機関誌の名称も「家畜の心電図」を「動物の循環器」と改めた経緯が「研究だより第4号」に載っている。この点について、誌名が動物の循環器に変わった第17号において、戸尾祺明彦会長が巻頭言で触れておられる。第20号には戸尾祺明彦会長、中村良一顧問、野村晋一顧問、西川春雄顧問、澤崎 坦顧問、本好茂一顧問、そして天田明男顧問が会誌20号の発刊に対して所感を載せておられる。また、第27巻1号には菅野 茂会長が「機関誌に望むこと」と題して、機関誌の順調な刊行のために定例学術集会での発表・報告内容を機関誌に投稿して頂きたい旨の寄稿をしておられる。1983年に研究会発足以降の活動が記載されてからこれまで、本学会の歩みは記されていない。したがって、本学会の理事会は、2014年に50周年を迎えるにあたって、発足からの変遷を記しておくことを決め、一人の理事に負託した。

これまでの「歩み」をみると、学術的な内容に留まらず学会活動は詳細に記録されている。1982年当時、学会の記録を調べるために、元初代会長の中村良一日獣大名誉教授が本学会の事務局を置いた東京大学農学部（東大）まで足を運ばれたことを思い出す。当時の会員や経費などの管理は、紙製のカードやノートへの記録であったため、検索に手間取ったことも思い出される。本学会は研究成果や症例に関する科学的な成果について発表し、その内容に対して検討を行う場であることは当然であるが、それらの成果としての新しい知識や知識に裏付けられた新しい技術を普及する活動も行っている。学会を構成する会員によって成立するこれらの活動は、役員及び事務局に支えられているので、会務についても記した。

最後に、作業を始めて、家畜心電図研究会が発足してから現在までの、資料の収集が難しいことを改めて認識した。資料の収集をお手伝い頂いた喜綿和美氏に、また走り書きの原稿に丁寧な修正・加筆を頂いた菅野 茂元会長にお礼を致します。国際文献社の市川幸弘氏には編集を、野村始子氏には元会長へのインタビューをお手伝い頂きましたことに感謝いたします。

なお、2014年現在の情報を記すにあたって、本学会ホームページに載っている、学術論文を含む情報は転載させて頂きました。

評議員・理事  
廣瀬 昶